



夢は続く 令和5年は飛躍の年に！

アルゼンチンの優勝で幕を閉じた今回のサッカーワールドカップほど、日本チームの試合に一喜一憂した大会はなかったのではないのでしょうか。日本チームはアジア予選での初戦負けから始まり、本戦予選リーグではドイツとスペインに逆転勝ちし、決勝トーナメントではクロアチアと延長戦の末にPK戦で惜敗しましたがベスト16となりました。ベスト8進出に向けて4度目の挑戦でしたが、その夢は次大会へ持ち越しとなりました。

なぜ、日本が予選リーグで強豪のドイツやスペインに勝てたのか、様々な分析がなされました。勝因はいろいろあるのですが、最も大きいのは、選手一人一人が今まで積み重ねてきたことを信じて、最後まで諦めずに戦ったからに違いありません。また、監督と選手の厚い信頼関係や選手同士の強い絆、試合後にピッチにする深々としたお辞儀やロッカールームを綺麗に掃除し折り鶴を置く心配り、そういった日本人の姿に世界各国の人々は感動し称賛をいただきました。

サッカーに限らず何事においても、誰かが頑張っている姿や周りに心を配っている行動を見るのはうれしいことであり、応援せずにはいられません。本校の児童にも、そういう姿がたくさん見られています。例えば、

- ・毎朝必ず、元気な声であいさつする子。声だけでなく満面の笑みであいさつする子。
- ・授業中に積極的に発表している子。級友の発表に賛同や補足をするなど、しっかり意思表示できる子。
- ・休み時間に友達と仲良く遊んでいる子。けがをした子に付き添いながら保健室に連れてくる子。
- ・当番や係活動、掃除などを、責任をもって行っている子など、小さな感動が日々生まれています。

話は変わりますが、来年の干支は「癸卯（みずのとう）」です。干支は十干（じっかん）と十二支を組み合わせたものであり、来年は十干が癸、十二支が卯（うさぎ）です。癸は雨や露、霧など、静かで温かい大地を潤す恵みの水を表しています。また、癸は十干の最後（十番目）であり、生命の終わりを意味するとともに、次の新たな生命が成長し始めている状態を意味しているそうです。そして、卯は穏やかで温厚な性質であることから「家内安全」や、跳躍する姿から「飛躍」「向上」を象徴するものとして親しまれてきました。以上のことから、来年は、新しいことに挑戦するのに最適な年と言われています。

来年は芳賀南小の児童のみなさんにとって、新たな目標に向かっての「挑戦の年」としてほしいと願っています。それでは、令和5年が皆様にとって、よいお年となりますように！



交通安全教室11/28（月）

町主催による芳賀町内の小（5・6年生）・中学校合同での「スケアード・ストレイト方式」による交通安全教室が開催されました。スケアード・ストレイト（scared straight）とは、「恐怖の直視」という意味であり、実際にスタントマン（シャドウスタントプロダクション所属）が、子供たちの目の前で交通事故を再現することにより、交通事故の衝撃や恐怖を実感させ、交通ルールの必要性について子供たち自身に考えてもらう有意義な機会となりました。



主催者の方々



見学の様子



交通ルールの確認



交通事故の再現



スタントの皆さん

芳賀中生によるマイ・チャレンジ体験活動11/30（水）～12/2（金）

芳賀中2年生の〇〇さん、〇〇さん、〇〇さんが、母校である本校で職場体験を行いました。3名はそれぞれ2・3・5学年のクラスを担当し授業の補助をしたり、休み時間に児童と積極的に交流したりしました。また、校内の環境整備にも汗を流しました。体験後の感想を聞くと、教職員という仕事にやりがいと楽しさを感じてくれたことがよく分かりました。今回の体験が将来の職業を考える上でよい機会となればと思います。



役場広報課体験生徒による取材



休み時間の一時

ヘリコプター搭乗体験12/1 (木)

5学年の児童を対象に、「栃木ヘリポートについて関心を高め、その役割について知り、幅広い見聞を身に付けるとともに、地元にあることに誇りをもつ」ことをねらいとして、ヘリコプターへの搭乗体験を行いました。県と東邦航空の皆さんには大変お世話になりました。

子供たちは、ヘリポートの役割や県の消防防災航空隊の活動について、熱心にメモを取りながら学んでいました。

全員初めての搭乗であり、子供たちからは、「初めて芳賀町の様子を上空から見るのができ、農地や工業地帯の様子がよく分かりました」「思った以上に南小が小さく見えました」「思ったよりも揺れなかった」などの感想が出るなど、大変貴重な体験となりました。



2組児童が搭乗したヘリコプター・1組児童は青い機体



消防防災航空隊の説明



顔出しパネル

「手をつなぐ親の会」栃木県大会芳賀大会12/1(木)

「第66回栃木県特別支援教育手をつなぐ親の会」の芳賀大会が「いちご一会、いま、心をひとつに」のテーマの下、益子町民会館ホールで開催されました。「手をつなぐ親の会」とは、学校におけるすべての子ども一人一人が自己実現を図り、自立することを願って、特別支援教育を推進する活動を支援している団体です。研修会の第2部では、「ダウン症の娘と共に生きる」と題して、金澤泰子氏による講演が行われました。

講演のはじめに、娘さんでもある書家の金澤翔子氏による揮毫（きごう）が披露されました。翔子氏はダウン症を患いながらも5歳から母泰子氏の師事で書を始められ、東大寺や厳島神社、伊勢神宮など、名だたる神社仏閣で奉納揮毫や個展を開催しています。また、NHK大河ドラマ「平清盛」の題字や、東京オリンピック公式アートポスター制作を担当するとともに、海外では、ニューヨークをはじめ、多くの国々で個展を開催しています。さらに、2015年には国連本部でスピーチを行うなど、多方面で活躍されています。現在は日本福祉大学客員准教授、文部科学省スペシャルサポート大使を務められています。

母泰子氏の講話では、「この子を自立させることだけが願いであった」「たとえ障害を持っていても、時間をかければできることは多い」「生きてさえいれば、絶望はない」など、自らの子育て経験から得た思いを話され、会場を優しさと勇気と感動で包み込みました。



書家 金澤翔子氏による揮毫

なわとびで体力づくり

12月に入り、体力づくりの種目が5分間走から短縄跳びになりました。子供たちは各自がめあてをもって、前両足跳びから徐々に難しい跳び方（全9種類）や音楽に合わせて跳ぶリズム縄跳びに挑戦しています。冬休みは上達する絶好のチャンスです。家族で一緒に汗を流してはいかがでしょうか。



表彰

- ☆わたしとLRT絵画コンクール(11/6)優秀賞 1年 ○○
- ☆芳賀地方芸術祭(詩部門11/27、他部門11/29)
- 詩部門 特選 3年 ○○ 入選 5年 ○○
- 硬筆の部 銀賞 1年 ○○ 銅賞 1年 ○○、○○ 2年 ○○
- 条幅1/2の部 銀賞 4年 ○○、○○
- 半紙の部 銅賞 4年 ○○、○○ 5年 ○○ 6年 ○○
- ☆11月校長賞(11/30)「知」25名「徳」24名「体」26名
- ☆12月校長賞(12/23)「知」27名「徳」20名「体」14名

保護者・地域の方との協働コーナー (12月)

◆7日(水)：3年社会科校外学習「農家の仕事」

東高橋の水沼様宅でいちご農家の仕事について学ばさせていただきました。

保護者の皆様、地域の皆様には、本校教育活動の充実に大変お世話になっております。心より感謝申し上げます。